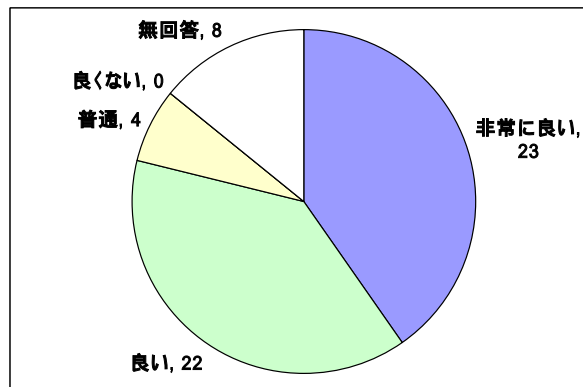


来場者の皆様へのアンケート

1. シンポジウムの評価

非常に良い	23
良い	22
普通	4
良くない	0
無回答	8
計	57



2. ハウスメーカー・パネリストへの質問と回答

<p>Q. 積水化学様のサンタリーコアについて、「一直線に配置したことでどんな身体状況にも対応できる」ということについて具体的に教えてください。</p>
<p>A. 脱衣室を中心とし、両端に浴室とトイレを配置し、浴室とトイレの入り口を広く取ることで、その扉を開けると脱衣室の空間も介護空間として使えます。浴室とトイレ自体の大きさはそれほど大きくありません。このサイズでも、車椅子介助が可能なサンタリーとなっています。(積水化学 岸)</p>
<p>Q. キッチンの高齢者仕様のあり方について詳しく教えてください。</p>
<p>A. IHヒーターにすることで、火事や火傷等の事故を極力避けることが大切です。また、車椅子や椅子を利用しての調理の際には膝が入るスペースがシンク下に必要になるので、取り外し可能な下箱収納が理想的です。ただ、身体状況が重くなると自身での調理よりも、介護サービス等他人が調理することが多くなることから、高機能すぎる仕様(天板高さ設定が自在にできる仕様など)は必要ないと考えられます。(積水化学 岸)</p>
<p>Q. 暮らしコーディネーターは小規模で何人必要でしょうか。コストは合うでしょうか。</p>
<p>A. 10~12世帯で1人の配置を考えています。それを何人の暮らしコーディネーターでシフトを組んで担うかは、勤務形態も含めてケースバイケースになります。(積水化学 岸)</p>
<p>Q. 在宅支援型グループホームについて、3ヶ月滞在型で症状はよくなるのでしょうか。その場合のグループホームの経営収支は大丈夫でしょうか。</p>
<p>A. 認知症の一般的症状は中核症状(もの忘れ等の病気の本質的な症状)と周辺症状(昼夜逆転、徘徊、妄想等の行動異常に伴う精神症状)に区別されますが、3ヶ月程度のグループホーム内で一定の規則正しい生活をおくることで、個人差もありますが、周辺症状の改善が見られるケースが多いと経験をもとに判断しています。経営状況は現在のところ満床稼働で、入居待機待ちの状況です。(ミサワホーム 吉田)</p>
<p>Q. サンリスタ守口の経営状況などを教えてください。</p>
<p>A. 計画営業利益は15%を目標にいたしておりますが、まだ改善すべき課題もあり、本年度達成は出来ない状況です。(パナホーム 平山)</p>
<p>Q. 国土交通省による「同居の推進」の具体策はどのようなものでしょうか。</p>
<p>A. フラット35の親子リレー返済制度、多人数世帯に対応した公営住宅を供給するための整備基準(面積要件)の緩和、UR賃貸住宅に高齢親世帯と子世帯が近居する場合の入居優遇等の既存施策のほか、地方公共団体独自の同居・近居推進施策を地域住宅交付金で支援することにより 三世帯同居・近居を支援・推進することとしています。ちなみに地域住宅交付金の活用事例としては、東京都北区における「三世帯世帯住宅建設助成制度」があります。地方公共団体の置かれた状況は一様ではないので、各地方公共団体が知恵を絞ってユニークで効果的な施策を展開することを期待しています。(国土交通省 小田)</p>

3 . シンポジウムへの感想・意見

ハウスメーカー各社報告で参考になった点

こんな取り組みをしていたのかとおどろいた。全体的な取り組み状況がわかり参考になった。
ハウスメーカーの取り組みに対し感激しました。
3社とも非常に参考になりました。
パナホーム平山部長の話がわかりやすかった。
ハウスメーカーによる上記の取り組みがわかり勉強になった。面白かった。
実例を交えた点が良かった。
予想以上にきめ細かい配慮がなされていることに大変興味深く感じた。
一言で言えばハウスメーカーがここまでやっているのかと驚くとともに勉強になった。
各社の動き等が把握できた。
特にセキスイハイム・パナホームの説明がよかった。老人ホーム、介護に対する偏見が多くの人々に潜在的に持たれて、誤解される部分が多いように思う。
取組内容が一同に介してご紹介いただき有意義だった。
松本さん: アンケート・調査にもとづく説明、とても良くわかり参考になりました。
3社それぞれいい情報でした。超高齢化社会に向けてメーカーとして高齢者対応の住まいづくりが急務であるが、消費者の方の家づくりのタイミングでなかなか「ケア」「介護」のキーワードが出てこない。いかに提案に結びつけるか、考えさせられた。
住宅会社さまの時代に沿った政策に感心しました。今後ますます重要なニーズが生まれます。一層の企業努力を期待します。
各企業の取り組みが思っていたより早くから始められていた事に驚きました。これまでは建物をつくって、引渡しすれば終わりだったのですが、今後は建物というハードだけでなく、サービス面でも幅広くきめ細かい対応が必要になってくる事を感じました。また、それを扱う人材・スキルアップが必要になってくることも感じました。
自立した高齢者の賃貸住宅を担当しておりますが、身につまされる話が多く参考になった。特に「高齢者の住まい方に対するイメージが普及していない」「高齢者の住みかえの文化がない」といったあたりが印象的であった。『昔の長屋住宅のように大家族のように一人ではないぬくもりのある暮らし方はとてもよいと思う。でも自分にはまだ早い。』とおっしゃる方が多い。80才の方でもお元気であれば早いと言われる。(ご家族がすすめても)
暮らしコーディネーターの概念は面白い。いずれにしても、ソフトの厚みを増していくことが重要であると感じた。
要介護となった老母と同居する家を探している身として、「ものの考え方」の根幹を整理してくれたような気がします。その点で今日のシンポは、住宅を必要とするシニア(及びシニアを抱える家族)というエンドユーザーにも貴重な示唆に富む、中身のあるものだと思います。

ハウスメーカー各社報告への意見

各メーカーの報告は興味深い点多かったが、より具体的に数字の報告も詳細にしてほしかった。
各社高齢者施設の運営にたずさわっていることを詳細に聞くことができただけで有意義であった。ただし個人的には極力自宅最後まで過ごす理想を追求したく、旭化成の外へのアプローチのとり方の例などをより多く知りたかった。デメリットやどの程度制約があるか。今回は幅広く知見が広がったので良かった。
先進的事例はよく分かったが、現制度の狭い勝手の悪い所など、もう少し教えてほしかった。
大変興味深く聞かせて頂きました。ハウスメーカーで研究会などがあるとよいかと。高専賃などのマーケティングの話があるとよいと思います。
住宅メーカーサイドの高齢者住宅の事例はよかった。 但し、購入する側、借りる側のニーズがつかみきれていない感じがした。
1.各社運営施設に於ける課題を整理したものを頂けましたらと思います。 2.税制改正をテーマに高齢者問題を組み入れて頂ければと思います。
各社の取り組みが良く判ったと思います。ただ課題も多く、今後さらなる工夫が必要であることも確かで、どの様に解決したかを発表していただく場を設けていただきたいと思います。
各社の取組み状況が良くわかりました。もう少し、一般の方々にもPRすべきですね。くり返し、各地で周知活動して下さい。

パネルディスカッションで参考になった点

発言者に生活感があって良かった。
すばらしい発言でした。
大変有益な話でした。
面白かったです。パネラーも でした。またやって下さい。
特に富永さんの話は、最も現場に近いところで活躍されており、参考になった。また皆さんニュータウンに住まわれている等、ご自分の話としてしゃべられていたので、たいへん良かったと思います。
1.パネラーの皆さまの積極的な意見が非常に良かった。「知らなかった事」を多く教えていただきました。 2.提言が大変参考になりました。
各人の立場からの街づくりにとても勉強になりました。
街づくりや運営論等、考えられる内容のディスカッションであった。
かなりつっこんだ議論になって良かったと思います。参考になる考え方等も多く、大変勉強になりました。
各パネリストの考えがストレートに出て良かった。
パネラーのパネルディスカッションがとても良いと思いました。残念ながら中座させていただきます。ありがとうございました。
非常に活発で、視点や議論も幅広く、面白かった。
具体的な事例についての話で参考になった。
魅力ある街作り又は街の再生方法という視点で大変参考になりました。既に米国の分譲地の例でもありますが、所得のちがいや年代のちがう人々が、ひとつの街で暮らせる仕かけの日本版をいろいろシミュレーションしてみたいと思います。

パネルディスカッションへの意見

コミュニティづくりの話が中心で、ハウスメーカーとして何ができるかが分からなかった。
もっと簡潔に答弁してほしい。要点が聞き出せなかった。
発表したハウスメーカー各社がしゃべった方が良かったのではないか。
共有できるビジョンにあと一歩だと思います。この半分でもよいと思います。ぜひ絵にして、社会に提示して議論するきっかけの提供をいただきたい。混在・自覚・あるものの活用がキーワードかな？
ユニットバスメーカーの者ですが、将来に向けてどのような物をつくっていけば良いかの方向性が見えやすい内容にしていきたい。

シンポジウム全般に関する意見・感想

まちづくりの話が多かった。住宅としてできることはほんの一部で、地域として盛り上げていくことの重要性を感じた。その中で、住宅としてやるべきこと、満たすべき性能を満足したうえで、他分野との連携を強めたいと感じさせられる内容だった。
前半の「住み替え」の話が長かったように思う。
パネルディスカッションが非常に興味深かったです。 できれば、もう20分程度長くっていただいても面白かったのではないのでしょうか？
パネルディスカッションがよかったと思います。パネリストの中の広さに起因しているのでしょうか。なお、もっと相互に質問しあう時間があるとよかったと思いました。
高齢期の住まい方について、「どういう選択肢があるか情報提供が必要」と切に感じています。今後もよろしくお願いします。

4 . シニアの都市居住に関する意見

高齢者住宅に関する意見

自立高齢者のための小規模な高専賃を運営できるシステムが必要(補助も含めて)
高齢者に対応する簡単な呼称等に整理・統合に賛成。いかに財団、法令の多いことか！
名称は重要だと思います。ぜひわかりやすい適切なものを考えたいと感じました。国交省で公募したらどうでしょうか？
メーカー：高専賃にこだわらないやり方が必要では。
高齢者専用賃貸住宅が今後特養・有料老人ホームの総量規制で増加していくと思いました。ただ良質なものを作っていかないと結局は事業として、高齢者のニーズに応えられないのではと思う。
施設系の総量規制にともない、在宅型・住宅系の高齢者住宅のソフト・ハードが増々重要になると思われる。各ハウスメーカーの取り組みが解って良かった。
高齢者の住みかえについて「早めの住みかえ」が進んでいないのは実感として持っています。複雑な制度の整理や名前など行政の課題はいろいろあると思います。
住み替えのための世代交替のシナリオづくりが必要。
後期高齢者の備えとしての、早目の住まい設計の文化を根付かせていく必要性を再認識しました。
住民の年齢バランスを考慮した街づくりのためにも高齢者住宅を整備する必要があると感じました。
地域の方が考えている高齢者の住宅と、高専賃の考えをどうすり合わせていけるかがこの分野の成長にとって重要だと思いました。

住み替えに関する意見

NPOの事業化は、民間への紹介、情報料などで可能になるのではないのでしょうか。住み替え需要に対するコーディネーター的役割は重要と思います。
高齢者の住み替えにはそれを受け入れる地域のあり方や住みかえの文化に対する意識が重要であることがよくわかりました。そのために住宅メーカーが何をしていかなければならないかという点で単体でのハード・ソフトの開発だけでなく、自社や業界で持つインフラをいかに活用するかということを業界全体として進めていかなければならないと感じました。
引越しができない理由 ・引越し経験がない ・荷作りがわずらわしい ・荷物処分ができない 引越業者提携 産廃処理+リユース市場へ(家具・家電・和服)

親子同居に関する意見

二世帯住宅の促進は少し疑問が残ります。家族みな満足することは難しいのではないのでしょうか。
・親子同居において介護度での生活パターンが移行していくであろう。その中でハウスメーカーとしての提案内容が知りたかった。同居メリットがみえてきた。 ・ハードよりソフトを高齢者社会でアピールが必要である。 ・ユーザーである高齢者に分かりやすく、シンプルな仕組みづくりを。

<p>・全体的に視点が異なり、有効なプレゼンでした。</p>
<p>・同居という考え方が、今後の日本の荒れた家族の再生につながることを期待したい。さらに高齢者に配慮した住まいが、子供への若者の共存の上に成り立つビジネスと一緒に模索していきたい。</p>
<p>・ITや、遠く通信などの利用で、無人でできることも視野に入れていきたい。</p>

行政やNPOとの協力に関する意見

<p>会社の自助努力がすごいと思います。これに対し、自治体やNPOなどの支援が少ないと思います。</p>
<p>住宅メーカーとしての経験やノウハウを生かした運営はもちろんですが、地域の市区町村の行政との連携を更に深め、利用者の負担軽減につなげられないものでしょうか。</p>
<p>ハウスメーカーとNPOが連携していくことで新しい高齢期の自立型の暮らしが可能になると思いました。</p>
<p>高齢社会に向け、各ハウスメーカーが進めている事業とその問題点を知る事ができました。行政・民間の協力により、早く社会に認知される事を希望します。貴重なデータを公開して頂きありがとうございました。</p>

ハウスメーカーの地域への関わり、街のあり方に関する意見

<p>営利企業である住宅メーカーがコミュニティにどこまで注力できるのか？難しい問題である。行政との強力なコラボレーションが必要であると感じた。超高齢化社会に向けて避けては通れない大問題だと感じる。</p>
<p>住宅だけでなく、街づくり全てを含めて、地域だけではなく、行政がどの様に支援するか、補助するかが課題であり、結局何も始まらないのでは。</p> <p>ハウスメーカーも街づくりと関わるべき。</p>
<p>住宅団地が開発されるとほぼ同世代の世帯が入居し、30～40年後には街が高齢化し廃墟となっている街もあるようです。「200年住宅」といわれていますが街づくりにおいても、200年元気な街ができれば高齢者が住み慣れた街で積極的に住み替えることができるのではないかと思います。</p>
<p>メーカーの視点から言うと、「モノ」づくりがメインテーマになってしまいがちなのですが、NPOの活動や行政とのタイアップなどにより、地域全体が住みやすくなる形態というのは非常に印象に残りました。今後、企業、行政、NPOの垣根を超えて、それぞれが役割分担できるような姿が望まれます。</p>
<p>高齢者と若者とが共生できる街づくりの中で住宅づくりを考えていきたい。</p>
<p>・「住替え」に対する考え方、様々な問題点があることを理解できた。</p> <p>・行政 NPO ハウスメーカーの連携の必要性。</p> <p>・「住みつづける」ためには、身体状況に応じて可変できる住宅の必要性も感じた。</p> <p>・街の活性化という視点から見ると「高齢者住宅」だけでなく多様な住宅に着目して開発しなければならない重要性を感じた。</p>
<p>"街づくり" 戸建て・集合・施設の融合の必要性、少子高齢、人口減少。"街"のあり方を考えなければなりません。</p>
<p>「超高齢社会」における住宅産業の応え方は、高齢者住宅に絞った商品開発では難しい。街の価値を高める、環境を整える、子供から老人迄住みやすい住環境を、ソフト・サービスをからめて提供していくという事が大事な、と思いました。</p>
<p>いろいろな世代が同居できる住まい、地域エリアで世代循環できる環境が必要。</p>

その他の意見

少子高齢化 = 生産年齢層の減少により 30 年後の世情の背景を想定した場合(格差社会、増税等)、どのように事業を考えるのか。

建築基準法に準いす対応を奨励的に盛り込んでどうか。

老後を考えた住まいの提供を感じる。

超高齢社会が目前に迫っていることはわかるが、団塊世代が過ぎ去れば高齢者数は減少していくのではないか。そのとき高齢者専用の住宅はどうなるのだろう。一方で国は「200 年住宅」といっている。そうなる目指すべきは、世代に応じて自由にインフィルを変えられるハードと住民が相互に支援し合えるソフトの充実が必要か。

・住み替え、それとも住み続ける方策なのか。

・終のすみかにならざるをえない住居の選択が大事。

・ビジネスとしてベネフィットをどう考えるか、そこにヒントがあるような気がする。